

20220418 第160回箕面探索同好会 学文峰（ナベワリ観察ハイク）記録

- 日時：2022年4月18日（月）9:30（千早口駅集合）～15:05（天見駅到着） ・天候：晴れ時々曇り
- コース：千早口駅（出発9:50）⇒ナベワリ群生地⇒シルミ峠⇒学文峰（昼食11:50）⇒下峠
⇒井谷ノ峰⇒叶山⇒叶神社⇒天見駅（15:05） 歩行距離：5.4km 参加者：22名
- 行きも帰りも交通トラブルに巻き込まれ大変だったが、バス利用でなかったのが幸いして実行できた。
- 朝はJR環状線内回りが線路付近から煙とかでストップ。JR利用者は迂回振替ルートを探して何とか南海千早口にたどり着いた。20分遅れで先発隊は出発。残る1名はシルミ峠までに追いついた。
- ナベワリは生えている場所が昨年よりも増えている感じで、多くの蕾や花が見られた。
- コースは急勾配の下りが多く苦労したが、朝の遅れにも関わらず、全員無事3時頃天見駅に帰着。
- 天見駅に着くと、今度は人身事故で、南海電車は河内長野止まり。やむなく近鉄で帰ることとなった。
- ハンショウツル、シライトソウ（蕾）、チゴユリ、なども見られ、新緑の観察ハイクが楽しめた。



ナベワリがいっぱい見られました



下向きに咲くので撮影が大変



最初のピークシルミ峠に到着



急坂を上がって3分休憩



道に迷わないように多くの標識が



三等三角点の学文峰山頂



下峠への分岐



井谷ノ峰へ下って、登って



(願いが叶う) 叶神社にやっと到着



叶神社から天見駅への下りも急坂



学文峰 (H414.4m) 山頂にて 三等三角点あり

(ちなみに今日の最高点は井谷ノ峰で標高491m)



シロバナアメリカスミレサイシン…在来のスミレサイシンにて根茎が肥厚する、園芸逸出



ナベワリ

…下向きに咲く、山道に入ってすぐに現れ、群生していて感激

ナベワリ (ビャクブ科ナベワリ属)

花正面



花側面



花背面



花被片は4個、1個は大きい。
雄しべは4個、葯は黄赤色。雌しべは？

全体 側面



茎は無毛で紫色を帯びる。

葉は互生し、先は尖り、基部は浅い心形。

葉脈が深く、縁が浅く波打つ。

参照：ヤマケイ「山に咲く花」、Web「三河の植物観察」



ミヤコアオイ…花筒がくびれる ⇔ ヒメカンアオイはくびれない



ムロウテンナンショウ…花序の付属体の先端がマッチ棒のよう ⇔ マムシグサは棍棒状



サンショウソウ…雌雄異株、これは雌花（雌株）



シライトソウ蓄…たくさんの株があったが、まだ蓄以前の状態が殆どだった



アオキ雄花（雄木）



アオキ雌花（雌木）…雌木にはたくさんの虫こぶ（アオキミフクレフシ）ができていた



サカキ新葉…美しいオレンジ色で目を引く



シロダモ新葉…フワフワの白毛に覆われて触りたくなる



チゴユリ



ハリギリ



コショウノキ…幼果ができている、雄しべが見えるので両性花か



↑ 幼果の横の苞に包まれたのは葉芽かな
← 幼果…熟すと橙赤色になる、有毒



コバノガマズミ…葉に毛が多くフワフワとした感触



イヌガヤ雄花…触ってもいたくない



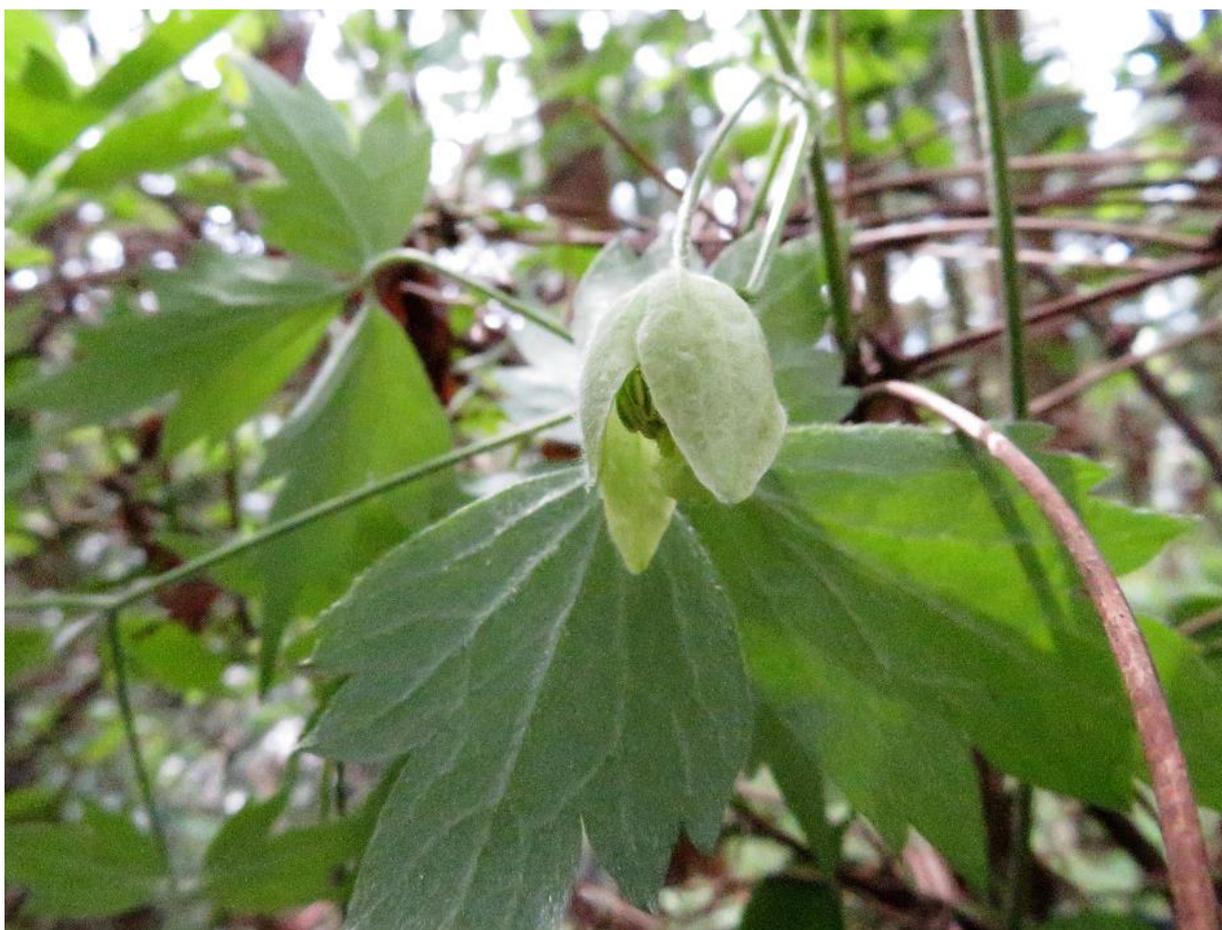
トリガタハンショウヅル… 3小葉、鋸歯が浅く細かい



トリガタハンショウヅル蕾と葉



シロバナハンショウヅル… 3小葉、小葉の鋸歯が深く粗い



シロバナハンショウヅル花



シイ新葉 (ツブラジイ or スダジイ)



ハウチャクソウ…枝分かれしている



アカショウマ



ツルカノコソウ



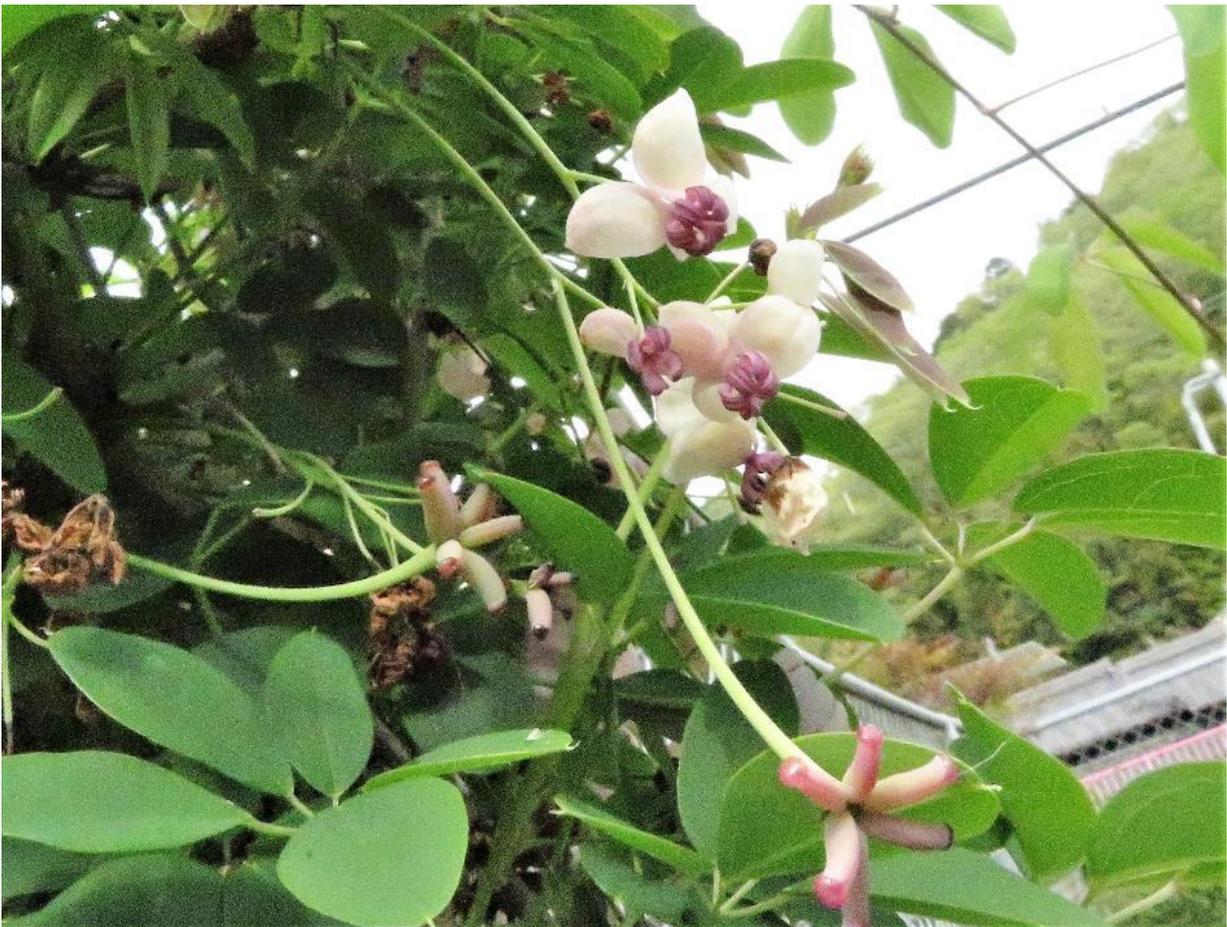
コナラの虫こぶ…コナラメリンゴフシ



シュンラン…命がけの斜面を下りながらでボケましたが



クサノオウ…ちぎると黄色い汁が出る、有毒



アケビ…ようやく天見駅到着！

以上